ホテル エーゼット
HOTEL AZ だより 2025年 冬編

Vol.19 令和7年1月号
ご自由にお持ち帰りください

［つくみイルカ島（じま）］

人・時めぐり逢い紀行⑲

津久見市は「みかん・セメント・野球が日本一のまち」。
その自慢の宝物と豊富なグルメの数々を石川正史市長にご紹介していただきます。

［発行問い合わせ］
株式会社アメイズ 福岡事務所
TEL:092-605-3321 FAX:092-605-3335
〒811-0213 福岡市東区和白丘2-3-2
令和0年00月発行 発行責任者 穴見 賢一（代表取締役社長）

津久見市は大分県の東海岸に位置し、豊後水道の一角を占める津久見湾を三方から囲む形をしています。日本一の石灰石の採掘地としても有名。この石灰石は、海水の質や土壌にも良い影響を及ぼし、美味しい海の幸や山の幸を育んでいます。

四浦（ようら）展望台

人時邂逅（ひときかいこう）

石川 正史（いしかわ まさし）
大分県 津久見市長

Masashi Ishikawa

1976年生まれ、大分県大分市出身。法政大学経済学部卒業後、1999年、KRY山口放送入社。2006年OBS大分放送入社を経て、2018年、株式会社タイセイ（現：㈱cotta）入社。2022年同社執行役員。2023年12月、津久見市長就任。

つくみん公園にて（2024年11月６日撮影）

穴見 賢一（あなみ けんいち）
代表取締役社長
株式会社アメイズ

Kenichi Anami

1970年生まれ、大分県佐伯市出身。2016年『ホテルAZ』を全国87店舗展開する『株式会社アメイズ』代表取締役社長に就任。柔道初段。趣味はロードバイク、カメラ、ラジコン（車、飛行機）。

「日本一」の三つのお宝は、「みかん セメント 野球」 冬旅で味わえるモイカの美味しさも日本一！

※モイカとは、イカの王様アオリイカのこと

穴見 石川市長は二つのTV局アナウンサー・ディレクターを経て、津久見市でお菓子、パンの材料や道具をネット販売する企業に転職するなどユニークな経歴の持ち主でいらっしゃいますね。

石川 大分放送時代に番組で、『㈱cotta（2020年㈱タイセイから商号変更）』を取材しました。創業者である佐藤成一さんの地域愛に根差した経営信条に感銘を受けて、自分も一緒にやりたい！と思ったんです。それで放送局を飛び出しました。ネット販売会社なので、市場は全国です。本来ならば物流などの拠点は顧客の多い関東近辺に置くのが当然の選択なのですが、主力拠点を津久見に置き、地域雇用を守るといったポリシーを貫いている企業です。

穴見 当社も大分に本社を置き、県内ではかなり早い時期に上場しているのですが、地域貢献、社会貢献を大きな使命としています。『㈱cotta』さんのように元気で志の高い企業は津久見市の活性化に欠かせない力だと思います。そんな企業の一員としての津久見愛が市長へのチャレンジにもつながっていくのですか？

石川 そうなんです。入社後、津久見で働くうちに、人口や老舗店の減少を目の当たりにし、採用活動では人材難で苦戦するなかで、「まちを元気にしたい」「何とかしなければ」という思いが、市長立候補の原動力になりました。

穴見 石川市長自身、津久見市の魅力を発信するトップセールスマンを自任されておられますね。津久見のセールスポイントはどのようなものがあるでしょうか？

石川 ズバリ「みかん、セメント、野球」です。市長の名刺を作るときにも、目立つところに配置してほしいと注文しました。このワードに津久見のオリジナリティや魅力のエッセンスが詰まっていると考えています。

穴見 それぞれが「日本一」とうたわれていますね。

平安末期から実をつけ続ける小ミカンの先祖木、縁起物としても重宝される希少品をふるさと納税返礼品で！

石川 まずみかんに関してご説明すると、リアス海岸の地形を利用した段々畑でのみかん栽培を中心に農業が発展してきた歴史があります。上青江蔵富地区の「尾崎小ミカン先祖木」は、現存する柑橘の木としては日本一古く、国の天然記念物に指定されています。樹齢850年以上の木が９本あり、今でも実をつけるため、国内でも希少な「食べられる天然記念物」なんです。商売繁盛・子孫繁栄の縁起物としてふるさと納税返礼品としても提供されています。

穴見 その先祖木は見学できるのですか？

石川 駐車場や道案内の看板が設置されていて、先祖木の近くまで行くことができます。津久見みかんの歴史のシンボルとして、現在も所有者により大切に管理されています。

セメントのまちならではの大人の社会科見学

穴見 「セメント」については昔から有名ですね。

石川 セメントの原料となる石灰石の生産量は日本一を誇ります。国内屈指の良質な石灰石の鉱山と海岸が近く、水深が深い港があって大きな船も接岸できることも特徴の一つです。

穴見 何十キロにもわたるベルトコンベアやトラックで運搬しなければならない採掘地が多い中で、津久見は地の利にも恵まれたんですね。

石川 産業観光としてもアピールしていければと思っています。津久見の街中には石灰石・セメント関連の工場が数多く集積しているため、国道の上をベルトコンベアが横切っていたり、県道を通っていても「間違って工場の敷地内に入り込んでしまったのかな？」と錯覚してしまうような場所もあります。独特の景観があり、夕暮れ以降は工場夜景も美しいですよ。

穴見 石灰石・セメント産業に従事している人も多いのでしょうね。

石川 はい。各企業の地域貢献への思いも強く、地元の学校での特別授業などにも積極的にご協力いただいています。これは三番目のキーワードである「野球」にも関わることですが、当市には津久見市民野球場があり、この球場の命名権を募集しました。太平洋セメントさんに応募いただき、2024年10月から『太平洋セメント津久見スタジアム』に、隣接する室内練習場のサニーホールは『太平洋セメント津久見スタジアム屋内練習場』に名称変更されました。同社に年間一定の協賛金をいただき、施設の改修費用として活かしていきます。築36年になりますので、トイレやベンチなど少しずつ改修していく計画です。

穴見 この球場には私も思い出があります。創業者である父から韓国のプロ野球チームがキャンプで津久見に来るので歓迎の横断幕を作るように頼まれたことがありました。私はまだ入社する前でしたので、詳細を聞く機会がないままでしたが、津久見は昔から野球が盛んなまちだそうですね。

津久見高校・2度の甲子園優勝から続く野球熱

石川 大分県立津久見高校は、昭和42年春と昭和47年夏の甲子園で全国優勝を果たすなど輝かしい歴史を持ちます。春と夏の甲子園でいずれも優勝経験があるのは、沖縄を除く九州では今でも津久見高校だけという実績を誇ります。「野球のまち」として野球熱が高い中で、先ほどおっしゃられた韓国プロ野球チーム「斗山（トゥサン）ベアーズ」との交流の歴史もあります。現在は、ベアーズのキャンプは行われていませんが、2024年には、韓国の高校生チームのキャンプ誘致が実現しました。40人ほどの高校生やチーム関係者が約1か月間に渡ってAZホテルさんに宿泊し、津久見でトレーニングに励みました。2025年以降も継続して、韓国の高校生チームを受け入れる予定です。

穴見 そうなのですね。ありがとうございます。市長就任早々に、取り組みの成果が出ていらっしゃるんですね。

石川 スポーツツーリズムという観点でも、観光交流人口の増加に取り組みたいと考えています。四浦（ようら）半島の海岸で毎年夏、ウィンドサーフィンの大会も開催されています。競技経験がある地元の方を中心に、令和元年、新元号とともに第1回大会を開催し、毎年九州各県の大学生を中心に50人ほどが津久見に集まり、やはりAZホテルさんへ泊まるんですよ。そして、遠方から津久見へ来た方々に駅周辺や商店街を周遊していただくため、お食事処や立ち寄りスポットのアピールにも力を入れています。

石灰石のミネラル分は海の幸も育みます

穴見 津久見ならではのグルメはありますか？

石川 津久見の海には、石灰が溶けたカルシウム豊富な水が海に注ぎ込むことで良い海藻ができ、モイカ（アオリイカ）、津アジ、津サバをはじめ多くの名産を生んでいます。1月13日までは「津久見モイカフェスタ」というイベントも開催されています。ぜひ旬のモイカを堪能しに来てください。

穴見 私は子どものころにお隣の佐伯市に住んでいたことがあるのですが、当時、保戸（ほと）島のまぐろ漁がとても盛んだった記憶があります。

石川 保戸島は、まぐろ漁の歴史とともに、様々なまぐろを使った料理が育まれ、でも「ひゅうが丼」は津久見グルメの代表格です。漁師が、漁の合間に手早く栄養をとれるようにとあみだした漁師飯で、まぐろの赤身にしょうゆ・酒・ごまのたれをかけて食べます。タレにネギやしょうがなどの薬味を効かせる事で食欲も増すため、夏バテ予防としてもおすすめです。また、近年では、津久見産養殖本まぐろ「ヨコヅーナ」というブランドも誕生し、市内の食事処でいただくことができます。まぐろ、モイカに代表される海の幸をお目当てに、市外からも多くのみなさんに来ていただけるようになりました。

穴見 高速道路を利用すると、大分市内から津久見まで車で40分ほどですね。観光交流人口の増加に伴って、移住希望者からの注目度はどうですか？

石川 例えば、地域おこし協力隊として移住して来た方がみかん栽培を始めたり、祖父母が津久見でみかん農家をしているご縁で、津久見に移住して農業を継いだりというケースも生まれています。また、2024年秋には保戸島の空き家を改修したゲストハウスがオープンしました。保戸島出身の30代の方がUターンして、ゲストハウスの管理人をされています。島や産業の歴史と伝統を守っていこうという若手の方がいらっしゃることは、希望の光になっています。移住者だけではなく、いま津久見に住んでいる方にずっと住み続けてもらうという意味でも、暮らしやすい環境を提供できればと思います。

穴見 ホテルAZ津久見店のすぐそばに『つくみん公園』があります。広々とした敷地に遊具が充実していて、子育て中の親御さんにはありがたい公園ですね。大人も楽しめそうで、津久見の暮らしやすさを象徴している感じがします。

石川 最後にもう一つ自慢させていただくと、毎年7月に開催される「つくみ港まつり花火大会」は、津久見の夏の風物詩といえる一大イベントで、毎年多くの方にお越しいただいています。津久見湾の中で上げる花火は、すぐ目の前で大輪の花が咲き、迫力満点です。物価高騰の影響で全国的に花火大会が減っている中、津久見の花火も予算的には厳しい状況ですが、クラウドファンディングなどの様々な工夫をしながら、津久見の花火の歴史を守っていきたいと考えています。

穴見 AZホテルさんから花火がきれいに見えるので、花火大会の期間は早い時期から全室予約で埋まるんですよね。当市にとっては大変貴重な宿泊拠点になっています。気持ちとしては御社にもう二つホテルを作ってほしいくらいです。

石川 地域に必要とされることほどうれしいことはありません。ありがとうございます。お客様のニーズに学びながら、より利用しやすいホテルづくりを目指していきたいと思います。

尾崎小ミカン先祖木

樹齢850年以上で、昭和12年に国指定の天然記念物指定。全国一の古木として有名な小ミカンの木で、今も所有者がわが子のように見守っているそうです。9株の古木が今でも実をつけ、商売繁盛・子孫繁栄の縁起物として喜ばれています。津久見市のふるさと納税返礼品になっています。

「セメント町」という名のバス停も！

津久見は、石灰石の鉱山・セメント工場群の風情を味わう産業観光も楽しいまち。「セメント町」という名前のバス停は、全国で唯一だとか。撮影スポットとして人気です。JR津久見駅隣接の観光協会では、VRゴーグルでセメント鉱山のバーチャル見学ができます。

『太平洋セメント津久見スタジアム』（旧称：津久見市民野球場）

「野球のまち津久見」を代表する球場。2024年にはプロ野球九州アジアリーグの公式戦が開催されたほか、韓国の高校や関東・関西の大学野球部がそれぞれ数週間から1か月に渡り合宿を行いました。併設の屋内練習場で雨の日も練習できることから、中長期の合宿地としても根強いニーズがあるようです。

保戸島

港より定期船で25分の豊後水道に浮かぶ周囲４kmの保戸島は、明治時代から続くまぐろ遠洋漁業の拠点です。地中海の漁港を連想させる独特の景観で「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」にも選定されています。ゲストハウス「Bindama（びんだま）」もオープンしたばかりです。

豊後水道河津桜まつり（2月～）

2月に入ると、四浦半島で「豊後水道河津桜まつり」を開催します。九州で最も早い開花といわれ、県内では最大となる5千本以上の桜の木が迎えてくれます。桜のピンク、木々の緑、海の濃い青、空の澄んだ青という、色のコントラストが鮮やか！晴れた日には四国まで見渡すことができる絶景をお楽しみください。

まちを挙げて開催中！ モイカ&津久見産まぐろの食フェスタ

モイカとはアオリイカのこと。独特の甘みと食感があり、「イカの王様」と呼ばれています。津久見産のまぐろもいただける料理スポットも多いので、ぜひチェックしてみてください。

つくみん公園

AZホテル津久見店のすぐ目の前！海や魚をテーマにした大型遊具が人気の、親子で1日楽しめる観光スポット。15台のいろいろなすべり台、思いっきり走り回れる広い芝生広場や、100台近い無料駐車場も完備しており、休日には市外からも多くの家族連れが訪れます。

つくみイルカ島

自然の海に暮らすイルカとふれあう体験型施設。イルカパフォーマンスやイルカとの握手・記念撮影のほかに「イルカと一緒に泳いでみたい」という夢が叶うプレミアム体験プログラムもご用意。予約に空きがあれば当日申し込みも可能！イルカと一緒に泳げる施設としては水の透明度が日本一といわれるきれいな海です。